

2026年4月24日

## 取締役会の実効性評価について

川崎汽船株式会社

当社では、持続的な成長と中長期的な企業価値向上のためには、コーポレートガバナンスが有効に機能することが必須であるとの考えから、毎年取締役会の実効性について評価・分析を行い、その結果を適時適切に開示しています。

この度、2025年度取締役会について実効性評価を実施し、その結果がまとまりましたので、以下のとおり概要を報告いたします。

### 記

#### 1. 評価の方法

本年度は、全取締役を対象としたアンケート及びインタビューの結果をもとに取締役会で討議し、自己評価を行いました。

<アンケート及びインタビューの主な項目>

- ・ 取締役会の構成
- ・ 取締役会の運営
- ・ 取締役会の議論
- ・ 取締役会のモニタリング機能
- ・ 社外取締役のパフォーマンス
- ・ 株主・投資家との対話
- ・ 指名・監査・報酬委員会の機能

#### 2. 評価の結果

##### 1) 評価結果の分析

2025年度の評価の結果、取締役会は概ね実効的に機能しているとの評価になりました。特に、指名委員会等設置会社への移行により監督機能に重点を置く体制となった点について評価する意見が多く見られました。

取締役会の実効性として重要と考える以下の点では安定した評価となっており、取締役会の機能発揮に繋がっていると考えます。

- ・ 十分な審議時間と自由闊達で建設的な議論
- ・ 前年度の実効性評価課題を踏まえた議論と課題の改善
- ・ グループ全体の潜在的リスクと対処方法、危機管理体制等についての議論
- ・ 経営計画の進捗状況のフォローアップ
- ・ 株主・投資家との建設的な対話及び取締役会へのフィードバック

一方で、データやデジタル技術の活用や株主・投資家との建設的な対話を踏まえた取締役会での議論などの項目においてはさらに充実を図る余地があることが認識されました。これらの点は引き続き今後の取組み課題として認識し、ガバナンスのさらなる向上を図ってまいります。

## 2) 前年度の課題への取り組み状況

前年度の実効性評価において課題とした各項目については、以下のように議論・取組みがなされていると評価されました。

- ・ 経営計画の進捗状況のフォローアップ（継続課題）  
進捗状況のフォローアップについて前年比での改善が見られました。一方で、進捗報告にとどまらず、更なるフォローアップを継続していく必要があると認識しています。
- ・ 中長期的な資本政策に関する議論（継続課題）  
資本政策や最適資本構成について、十分な議論が行われているとの意見が見られました。次期中期経営計画を見据えて、中長期的な企業価値向上の観点から資本政策の議論をさらに深めていく必要があるとの認識が共有されました。
- ・ グループガバナンスの強化（継続課題）  
内部統制については必要な対応が講じられているものの、コンテナ船事業統合会社（OCEAN NETWORK EXPRESS 社）を含む海外子会社・関係会社に対する監督の実効性向上は、引き続き課題であると認識しています。
- ・ データとデジタル技術を用いた価値の創出（継続課題）  
デジタルトランスフォーメーションの推進に向けた戦略について、取締役会への報告を充実させるとともに、取締役会による議論及び監督が実効的に行われる体制を構築することが課題であると認識しています。

## 3. 2026年度の重点課題

上記の分析・評価結果を踏まえ、より実効性の高い取締役会の実現に向けて、2026年度は以下の重点課題に取り組んでまいります。

- ・ 経営計画の進捗状況のフォローアップ
- ・ 中長期的な資本政策に関する議論
- ・ グループガバナンスの強化
- ・ データとデジタル技術を用いた価値の創出
- ・ 株主・投資家との対話を踏まえた議論

以上